

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073500284		
法人名	医療法人 恵真会		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	福岡県糸島市志登567-1 (電話) 092-330-6111		
自己評価作成日	令和 元年 6月 4日	評価結果確定日	令和 元年 9月 6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ユニットケアにより利用者様も職員も顔なじみで、深いかかわりが生まれている。私物の持ち込みが可能なので、慣れ親しんだ家具などを持ち込まれ、今までの生活と変わらない雰囲気、自然にホームにとけこんでいただき、心身のやすらぎを感じていただくように心がけている。一人ひとりの個性と生活のリズムを尊重し、その方が有する能力を見極めながら、家庭菜園や食事の下ごしらえなどをお手伝いしていただき、無理なく自分らしく生活していただける様に支援している。家族との関係が希薄にならない様に、来所された時にはゆっくりと歓談していただける様に雰囲気作りに努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 元年 6月 21日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周囲には田園が広がり小川のせせらぎなど四季を感じやすい静かな環境にある。事業所内ベランダにはキュウリやトマトなど数種類の野菜や草花を栽培しており利用者とともに育てている。収穫後は食材として活用するなど「食」の楽しみの一つとなっている。職員は家族や利用者の信頼関係の構築のため日々のコミュニケーションを大切に關わるよう努めている。地域の中で暮らすことの大切さ及び地域との関係性の確立と継続性は法人全体で取り込まれ地域行事への参加、法人行事やボランティア慰問の受け入れなどの実績がある。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や職員室に理念を掲示し、毎朝申し送り時に唱和している。理念を共有し実践に繋げている。	事業所の理念は玄関、スタッフルームに掲げており朝礼での唱和、月1回のめぐみ会議で実践できているか振り返っている。地域密着の観点から運営推進会議の開催、行事参加、外出企画などを中心に関係性を保てるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園と交流を定期的に行ったり、校区の文化祭に作品を出品し、見学に行っている。あじさい祭りを通して、地域の方々と交流を深めている。初詣は、地域の神社に参拝に行き、地域との関わりを持つようにしている。	地域文化祭への参加、法人のあじさい祭りの地域への声掛け、保育園の慰問、小学校のベルマーク収集などを通して地域とのつながりを大切に支援している。特にあじさい祭りでは飲食及びフリーマーケットの出店を地域住民が担っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを地域に配布し、日常生活を伝えている。あじさい祭り際には、玄関に看板を掲げ、見学会を開きご相談に応じている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事報告・事故報告・情報交換等を行い、ご意見やご指導をいただいている。家族会や敬老会・避難訓練・保育園児との交流などに参加してもらい、意見をいただきサービスの向上に活かしている。	運営推進会議では利用者、家族、地域包括支援センター、町内会役員、民生委員の参加がある。事業所のサービス内容や地域の抱える問題など様々な議題で話し合われている。家族会のアンケート結果の公表では開かれた事業所の取り組みの一つになっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題が発生した場合は、市役所に訪問したり、電話で相談している。社会福祉協議会・地域包括支援センター等に、月数回空床情報をFAXし、事業所の実情を伝えながら、協力関係を結ぶように取り組んでいる。	市や地域包括支援センターとは日頃から窓口、電話などで生活保護利用に関すること、入居相談、空床確認など地域ニーズも含め連携している。運営推進会議では事業所活動の実績や予定、事故報告等サービス向上につながるよう行政を交え話し合わせ協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、勉強会を行って理解を深めている。職員全員が理解している。玄関の鍵に関しては、ご家族の希望もあり施錠している。同意書もいただいている。	施錠に関して居室は終日施錠はしていないが玄関は施錠している。施錠の理由は同意書に記載しており家族の署名捺印により理解を得ている。外出傾向にある利用者は見守りや付添いをすることでトラブルやリスクが軽減できるよう努力している。	見守りや付き添いをすることで、少しでも玄関を開錠できるように取組んで欲しい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の勉強会だけでなく、隣接する老健の勉強会、外部研修に参加し、職員全員が理解し、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に資料を渡し、ご家族に説明を行っている。毎年勉強会を行い、理解を深めている。これまでに利用者様で活用された方はいない。	権利擁護に関する制度説明は契約時に行われる。職員に対しても内部研修及び外部研修で学ぶ機会がある。現在制度を利用している利用者はいないが今後も利用相談や活用できるよう支援を目指している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面接時に、十分に説明を行い理解していただいている。介護報酬改定時には、説明文書を事前に送付したり、家族会で、口頭・文章等で説明し、ご納得された上で同意書をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族への無記名アンケートを行い、会議にて報告・検討している。その結果を、家族会、運営推進会議で報告し、ご意見をいただき、運営に反映させるように努めている。意見箱をユニット毎に置いている。	利用者や家族の要望は日頃から聞き取る体制にあり、日課につながるよう努めている。飲料の持ち込みや飲料業者の個別配達、入浴順番の変更、西日対策としてよしずを立てるなど生活の質を高められるよう支援している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の法人本部との会議の中で、職員の意見を反映し、安心して働ける環境整備に努めている。	職員からのアイディア、意見は日頃から管理者が聞き取り運営に繋げている。内容によっては法人本部の月1回の会議にて報告され職員の意見が反映される体制がある。ユニット間でも意見交換が行われ業務の標準化に努めている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修には積極的に参加している。毎月の介護会議の折に、内部研修を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集の際は一切条件を設けておらず、希望者はすべて面接を実施し、採用には人物本位で決めている。職員一人ひとり得手とする役割で働けるよう配慮している。	事業所職員が自己研鑽に励むことができるよう資格取得や外部研修の受講を支援し、法人全体での内部研修年間計画で教育体制が確立されている。外部研修は希望者及び職員を指定して受講させるなどテーマに合わせた人選が行われている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に数回、人権擁護の勉強会を行っている。入居者様の尊厳を守る大切さを伝えている。	県の主催する人権研修参加や内部研修では同和教育も含んだ幅広い人権テーマで実施している。参加できなかった職員に対しても報告記録など確認し全員が受講できる体制がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ、ステップアップの為、又、日々の生活を充実出来る様、勤務調整をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着部会に参加、他施設との交流、意見交換を行っている。地域の催しにも参加している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に、ご本人とご家族の要望を聞いている。それを基に安心して生活していただける様な関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に、詳しく話を聞きご家族の状況を理解するようにしている。ご家族の状況に合った対応を行い、信頼関係を構築している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望をお聞きし、現段階で何を必要とされているのかを見極められるよう情報収集に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の事やご家族の話を傾聴したり、職員が知らない事を教えていただける存在である。ベランダの花や野菜を職員と一緒に植えたり、お菓子作りの手伝いをさせていただいたりしている。出来る事はなるべく職員と一緒にさせていただくようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態の変化等は、直ぐに伝え相談している。病院受診など協力していただき、共に支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどで、馴染みの場所にお連れしたり、ご家族が来設された時に、お茶をお出ししたりして、ゆっくりと過ごしていただける環境を提供している。	職員は利用者との外出の際、入居前の自宅周辺をルートにしたり、馴染みのある神社が窓から見える居室へ入居案内するなど精神面にも配慮した支援をしている。家族は利用者への面会だけではなく外出・外食の送迎、手紙のやりとりで関係性が保てるよう協力している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席など、気の合う方と一緒にできるように配慮している。ゲームをしたり作品を一緒に作ったりする中で、仲良くしていただける様に支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても様子を見に行ったり、ご家族の方に様子をお聞きしたりしている。いつでもご相談や支援に応じる姿勢を示している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中での様子や、言動を見て一人ひとりの思いを察するようにしている。ご家族からも、ご本人の思いを聞くようにしている。	家族の面会時に会話の中で日常的に要望や意見を伺っている。夜勤者にも伝え、アセスメント表に記録して入居者の情報を職員で共有し意向に沿えるように努力している。聞き取りの困難な方には表情や言動から本人の思いに近づくように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族からの聞き取りや担当の介護支援専門員等からの、情報提供で把握するようにしている。ホームに慣れていただく為に、ご本人の馴染みの物を持って来ていただくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に目を通し、朝の申し送りで、現状把握するよう努めている。生活の様子を観察し、心身の変化を見逃さない様努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスや職員同士の情報交換を行い、意見やアイデアを出し合っている。主治医や往診時に状況説明を行い、指示を仰いで利用者様の現状に即した介護計画を作成している。	担当職員とケアマネージャーを中心にご家族と更新時に定期的なカンファレンスを行い情報交換している。利用者の状態を職員で共有し個別の計画を立てており、状態の変化に応じて現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録で共有し、申し送りノートに気づきや変化を記入し、情報の共有を行って、介護計画にも反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診は基本的には、ご家族にお願いしている。ご家族の都合が悪い時は、職員が病院の付添を行っている。利用者様で、ヤクルトが好きなお方にはホームへ配達してもらい、料金は立替え対応をしている。なるべく利用者様の要望に沿えるように柔軟な支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区の文化祭に参加したり、地域の保育園と定期的に交流を行っている。年に1度、消防署立ち会いの消防訓練を行い、指導をいただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの、かかりつけ医との関係を大切にし、受診してもらっている。受診が無理な方は、往診していただける病院を紹介し、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時、本人や家族の希望があればかかりつけ医との関係を大切にしている。受診の際、家族が同行できない場合は職員が同行し夜間の状態等を報告している。家族付き添いの場合にかかりつけ医と連携を取り結果等の情報も家族と共有している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務している看護師が定期的にホームに来設した時に、状況報告・相談をしている。又、利用者様のかかりつけ医の看護師に相談し、適切な受診や看護を受けれるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、面会に行き病院との情報交換を行い、ご家族とも連絡を取り、早期退院が出来る様に働きかけている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化についてアンケートを取っている。ご本人の状況に応じて、今後の方向性を、ご家族や主治医と話し合い支援している。	入居時、重度化についてアンケートを取り「看取りに関する指針」や同意書にて家族の意向を確認している。状態が変化した時は、今後予測される状況を説明し、ご家族や主治医と話し合い再度、意向を確認している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応の勉強会に参加している。職員室に急変時対応のマニュアルを開示し、落ち着いて対応が出来る様に日々意識している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>朝礼時、火災マニュアルを唱和している。2ヶ月に一度、避難訓練を行い、年に一度は消防署立ち会いで訓練を行い、消火器の使い方等も指導していただいている。災害対策はホーム内の勉強会にも取り入れている。</p>	<p>朝礼時、火災時のマニュアルを毎日復唱している。避難訓練は、利用者・地域消防団も参加し年1回の夜間想定を含め年6回避難訓練を実施している。非常食は事業所内に備蓄している。災害対策の勉強会を事業所内で実施している。</p>	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりに合った言葉かけや、対応を行い、トイレ誘導等は、ドアやカーテンを閉めて介助している。プライバシー保護に関しても勉強会を行っている。</p>	<p>プライバシーの保護について、内部研修を行い理解している。入居時に電話・知人からの取次ぎや写真の施設内での掲示について可否を確認しプライバシーを損ねないように対応している。</p>	
39	—	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ご本人の希望をくみ取り、自己決定出来る様に働きかけている。日々のコミュニケーションの中でも、自己決定出来る様に促している。</p>		
40	—	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの日々の過ごし方を観察し、その方のペースを大切にしている。ご本人の意向を大事にしている。</p>		
41	—	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご自分で整容や洋服を選ぶ方は、ご本人の意思に任せている。出来ない方は、髪を整えたり季節やその方に合う洋服を選び、おしゃれが出来る様に支援している。</p>		
42	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>旬の食材を使い、季節に合った献立を考えている。又、ホームで育てた野菜を自分達で収穫し、季節を体で感じてもらっている。食事形態も一人ひとりに合わせ提供している。</p>	<p>ホーム内で育てた季節の野菜を自分たちで収穫し、食卓に出して季節を身体で感じてもらっている。ホーム伝統の毎月1日は赤飯を出して月の変わりを感じていただき、郷土料理を提供して食事を楽しんでいただける工夫をしている。</p>	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量の確保・食事量・形態は、日々のケアの中で把握し、チェックを行っている。献立に関しては、食材業者の栄養士がメニューを作成し、その後見直しを行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケアの声かけ、見守り、介助等、一人ひとりに合わせた支援を行っている。義歯の方は、定期的に洗浄剤を使用している。口腔ケアの困難な方は、歯科衛生士や歯科医師に指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、職員が把握している。定期的な声掛けや、トイレ誘導、トイレ使用時の見守りを行い一人ひとりに合わせた支援を行っている。	利用者の水分量など排泄チェック表を作成し把握している。利用者の排泄週間を活かし、トイレでの排泄ができるように声かけや誘導をしている。立位が困難な方もトイレでの排泄ができるよう介助し、排泄の支援をしている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、ヨーグルトや牛乳を飲んでいただいている。又、主治医に相談し下剤で調整している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日はホームで決まっているが、時間の希望がある方には、それに合わせた入浴をしていただいている。個人の状況に合わせた声掛けを行っている。	入浴の曜日は事業所内で決まっているが、時間変更や入浴の希望がある場合は状況に応じて入浴を楽しんでもらっている。入浴を拒まれる場合は声かけや職員を検討し個々の希望に沿った入浴介助をしている。入浴できない時は清拭や足浴等をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子に合わせて、休息の声掛けを行っている。昼寝の必要な方には、時間を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方箋を個々のカルテに保管し確認出来る様にしている。薬の変更や新しい薬が処方された時は、申し送りノートとバイタル表に記入し症状の変化に気を付けている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体に負担がかからない新聞折りや、タオルたたみなど、座って出来るお手伝いをしていただく支援を行っている。又、楽しみにされている時代劇や相撲観戦を見てもらい、気分転換等の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩など、出来るだけ外に出る様に努めている。初詣や桜の花見、クリスマスイルミネーションの見学、バスハイク等出かけられるように支援している。	ドライブや同敷地内の関連施設の外周の散歩・行きつけの美容院に行くなど外出の機会を増やしている。初詣・桜見物・藤見物・クリスマスイルミネーション見物や年1回のバスハイクなど外出の支援をしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用する機会がほとんど無い為、持たれていない。必要な時、使用できるようにご家族に相談し使用できるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様宛の手紙が届いた時は、ご本人に渡し、お孫さん宛に利用者様が書かれた手紙は、ご家族へ渡している。ホームの携帯電話も、ご家族からの電話を取り次ぐように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物や花を飾り楽しんでいただいている。居室内に温度計を設置し、温度や照明も状況に応じて、その都度調整している。	施設内の共有スペースに季節の花を飾り、入居者の作品を廊下に掲示している。テレビも2ユニットのチャンネルを合わせて騒音にならないように配慮している。昼食時は音楽をかけてゆっくりと食事ができるよう工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係により、席の配置を考慮したり、談話出来る様長椅子を用意して居心地の良い環境作りをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた布団、家具等を持って来ていただき、安らげる居室作りを心掛けている。	居室には、入居者の思いのこもった家具や寝具・家族の写真・作品などが置かれている。利用者の大切な物が置かれており、ご本人・ご家族が安心できる居室の配慮がされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーで手すりも設置している。トイレの場所や名前を大きく掲示したりして工夫している。靴の着脱時の転倒を防ぐ為、随時フローリングにリホームしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示。朝礼時に理念を唱和することで、意識付けが出来ており、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に利用者様の作品を出展し見学に行っている。定期的に保育園児との交流がある。又、初詣は地域の神社に毎年参拝したり、あじさい祭りには地域の方に来ていただき交流を深める様にしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを、年4回地域に配布している。ホーム便りの中で、「何かお困りの事などありましたら、ご相談下さい」と投げかけている。又、あじさい祭りの時には、見学会を開きご相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を行い、行事報告・事故報告・情報交換等を行っている。ホームの行事にも参加していただき、実際の活動も見ていただいている。その上で、ご意見・ご指摘をサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市に運営推進会議の議事録を提出している。社会福祉協議会・地域包括支援センター等に、月に数回空床情報をFAXしている。入所の相談があった折に、市の福祉支援課に確認・相談等をした。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や、隣接している老健と合同勉強会を行うことにより、全員が理解している。但し、玄関の鍵に関しては、車の出入りが多く危険な為、ご家族の希望もあり施錠している。同意書もいただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会だけではなく、隣接する老健の勉強会、外部研修にも参加し、学ぶ機会を得る様にしている。マニュアルも作成し、職員全員が理解し、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で毎年1回は、必ず取り入れている。入居時に、ご家族にも説明を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時にも話し合い十分な説明を行っている。介護報酬改定時には、家族会で説明をし、質疑応答を行いご理解をいただき同意書をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族アンケートにて要望等をお聞きしている。アンケート結果を会議で検討し、家族会、運営推進会議で報告しご意見をいただいている。介護会議・運営推進会議の検討結果をふまえて、運営に反映するようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の法人本部との会議の中で、職員の意見を反映し、安心して働ける環境整備に努めている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修には積極的に参加している。毎月の介護会議の折に、内部研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集の際は一切条件を設けておらず、希望者はすべて面接を実施し、採用には人物本位で決めている。職員一人ひとり得手とする役割で働けるよう配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に数回、人権擁護の勉強会を行っている。入居者様の尊厳を守る大切さを伝えている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ、ステップアップの為、又日々の生活を充実出来る様、勤務調整をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着部会に参加、他施設との交流、意見交換を行っている。地域の催しにも参加している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人との面談を行い生活歴・趣味等を把握し、それを基に安心され、慣れられるようそばに寄り添う関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時に、ご家族の思いをお聞きしている。又、入居後もご家族の不安・要望をお聞き出来る様に信頼関係を構築している。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で、ご本人とご家族の困っておられる事、不安な事、要望等をお聞きして、現段階で何が必要なのかを見極められよう情報収集に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットケアにより馴染みの関係作りが出来ている。ご本人が話される昔の事を傾聴し、生活に活かせるところは手伝っていただいている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、近況報告を行っている。定期病院受診等、協力していただきたいところをお願いしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った実家、馴染みの場所にドライブに行ったり、昔の写真を見ながら思い出をお聞きしたりしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性等を考慮したテーブル配置をしている。レクリエーション等を通じて仲良くなれるよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたおりに、面会に行ったり、ご家族にはいつでも相談に来て下さい。と、声かけを行い、関係性を維持している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画立案時、聞き取りを行っている。又、日頃の言動により希望を把握している。ご本人の気持ちを踏まえてケアに取り組んでいる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、担当の介護支援専門員等からの情報提供で確認し把握している。ご本人・ご家族からもお聞きしている。又、馴染みの物を持ってきていただくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・バイタルチェック表に必ず目を通してしている。その上で、一人ひとりの表情・言動を観察し現状把握に努め、状況に応じた対応を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と介護計画更新時にカンファレンスを設けている。又、主治医にはその都度電話で連絡をとり、往診時に状況を伝え指示を仰いでいる。それぞれの意見と職員の気づきや思いを、鑑みて利用者様の状況に即した介護計画を立案している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノートに、気づきや変化を記入し情報の共有を行っている。月1回カンファレンスを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯磨きが難しい方、飲み込みが悪い方、立ち上がりや姿勢について等、専門家に尋ねアドバイスをいただいたり、ご家族の協力と共に、サービスの向上に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に1度消防署立ち会いの消防訓練を行い、指導していただいている。又、地域の保育園から定期的に慰問に来ていただいている。地域の文化祭にも参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係を大切にし、ご家族の受診が困難な時は、ホームの職員が同行している。受診が困難な方には、往診医に変更するなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務している看護師が定期的にホームに来設した時に、状況報告・相談をしている。又、利用者様のかかりつけ医の看護師に相談したり、隣接する老健の看護師に相談したりと、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネジャーが病院のソーシャルワーカーと情報の交換を行い、情報の共有を図っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化についてのアンケートを取っている。ご本人の状況に応じて今後の方向性を、ご家族や主治医と話し合いを交え支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時対応の勉強会に参加している。落ち着いて行動出来る様に日々意識している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策をホーム内の勉強会にも取り入れており、朝礼時、火災マニュアルを唱和している。2ヶ月に一度、定期的に避難訓練を行っている。年一度は、消防署立ち会いで、利用者様も一緒に避難訓練を実施している為、避難方法を全職員が身につけている。隣接する老健とも協力体制を築いている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは早口にならない様にゆっくりと丁寧に話すようにしている。トイレ誘導時等は、きちんとドア・カーテンを閉めて介助している。プライバシー保護についてはホーム内でも勉強会を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望をくみ取り、自己決定へ繋げている。日々のコミュニケーションの中で、自己決定出来る様に促している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人ひとりの日々の過ごし方を観察し、個々にお昼寝をしていただいたり、散歩に行ったりと、ご本人の意向を大事にしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、髪を整えてもらっている。出来ない方はスタッフが整えさせていただいている。更衣については、ご本人の希望をお聞きしながら、その日の天気や温度、季節に合った服装が出来る様に支援している。自分で洋服を選ばれる方は、ご本人の意思を尊重し見守りながら支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食べ物、行事食を献立に取り入れている。ホームで育てた野菜を自分達で収穫し食べる楽しみを味わって頂いている。又、一人ひとりに合った食事形態を提供している。お手伝い出来る方は盛り付けや、片づけと一緒にいただいている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人ひとりの水分量の確保、食事量、形態は日々のケアの中で把握している。献立に関しては食材業者の栄養士が立て、その後ホーム内で見直しを行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて出来る利用者様には声かけして見守り、口腔ケアの困難な方には、歯科医師、歯科衛生士より指導を受け介助している。朝・夕の口腔ケアを実施。定期的に義歯洗浄を行っている。又、口腔内に異常があれば歯科受診を進めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握出来る様に記録を付け、その人に合った習慣を活かした排泄ケアに取り組んでいる。定期的にトイレ誘導を行い陰部洗浄や清拭にて清潔を保っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに応じてヨーグルト・ヤクルト・牛乳を時間帯も考慮して提供している。薬服用の際にも、一人ひとりのパターンによって服用していただいている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	曜日はホーム内で決めている。時間帯は希望や状況に合わせて、入浴していただいている。また、ゆず風呂も楽しんでいただいている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、一人ひとりの状態に応じて、休憩時間を設けたり、その方の生活時間を崩さない様になっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに処方箋を綴り、いつでも確認出来る様にしている。又、薬の変更時には、申し送りノートやバイタル表にも記入し症状の変化を把握出来る様にしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて、出来る能力に応じて役割を持っていただいている。身体状況上、立ってのお手伝いが困難になってきている為、座ってお手伝いをさせていただくなどの支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く、ドライブに行ける日は外出するようにしている。散歩は1対1でしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状況に応じて所持金を持たれている方もいる。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホワイトボード等を利用して、ご家族とのやり取りをされたり、ご家族から電話が来て電話を繋ぐことがある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に温度計を設置し、室内温度に配慮している。又、日中の光や夜間の音等にも配慮している。テーブルには季節の花を置いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルには気の合った利用者様同士で座っていただくように配慮している。窓側には、日向ぼっこが出来る様に、長椅子を置いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・家族の写真等を、持ってきていただいて、心地よい空間づくりをしている。ご本人、ご家族が過ごしやすいようにしていただいている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。以前は畳の部屋も半分あったが、靴の着脱時の転倒を防ぐ為もあり、随時フローリングにリホームしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある		
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある		
			<input type="radio"/>	③たまにある		
			<input type="radio"/>	④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
			○	③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		